

《文しょうもんだい 15》

いろいろな ぶんを よんで こたえる れんしゅうを しましゅう。こたえを かく ときには もう いちど ぶんを よみなおしましゅう。

【れいだい】

つぎの ぶんを よんで こたえましゅう。

あしたは ともだちが ろくにんも、いーたさんの いえに あそびに きます。そこで、きょう、いーたさんは おかあさんと ふたりであしたの おやつを かいに スーパーに きました。

「みんな なにが すきかしら。いつもの このプリンは どう。おいしいよね。」

と おかあさんは いーたさんに ききました。

それは いーたさんが とても すきなプリンでした。

「うん、それが いい。きっと みんなも よろこぶと おもうよ。」

と いーたさん。

プリンが カップが ふたつ つながって うられて います。

「くるのは ろくにんだったわね。ふたつずつ つながって いるから これを よつつ かえば いいよね。」

と おかあさん。

おかあさんは プリンを よつつ かごに いました。

ちよつとだけ しんぱいな いーたさんは、プリンの かずを かぞえて たしかめて みました。

「ひとつ、ふたつ、みつつ…。」

ぜんぶ かぞえおわって いーたさんは いいました。

「うん、だいじょうぶ。ぼくの ぶんも ちゃんと あるよ。」

すると、

「おかあさんの ぶんも あるかしら。」
と おかあさん。

「うーん、どうかな。もしかしたら ないかもし

れないよ。」

「いたさんは わらって いました。
へんですね。おかあさんの ぶんは ある は
ずです。もしかしたら ふたつ たべる つもり
なのかも しれません。」

(1) あした、ともだちは なんにん あそびに
きますか。

(2) いたさんは、おかあさんと おやつを か
いに、どこに きましたか。

(3) カップが ふたつ つながった ものを な
んこ かいましたか。

(4) プリンは ぜんぶで なんこ かいましたか。

(5) おかあさんの ぶんも 入れると みんなで
たべる プリンは なんこに なりますか。

【こたえ】

(1) ろくにん

(2) スーパー

(3) よんこ

(4) はちこ

(5) はちこ

【せつめい】

(1) から (3) は、つぎのように かいて あ
ります。

(1) あしたは ともだちが ろくにんも、

(2) おやつを かいに スーパーに きました。

(3) プリンを よつつ かごに いました。

(4) えを かくと つぎのように なります。

□	□
□	□
□	□
□	□

(5) ろくにんの ともだちと ケンタと おかあ
さんで、はちにんです。

つぎの ぶんを よんで こたえましょう。

いーさんと おとうさんは くりひろに
くりやまに きて います。くりの きには い
がに はいった くりが いっぱい なって い
ます。

すこし さがして あるいて いると、

「あ、あそこにあつた。」

と いーさん。ひとつめの くりを みつけま
した。

「あ、あそこにも…。」

すこし さがすと また ひとつ。そして あ
るくと また ひとつ。つぎつぎと くりが み
つかります。ひとつずつ くりを ひろうと、

「パパ、もう ごこに なったよ。」

と いーさん。

「こんなに おちて いるのは、ちょうど くり
がよく おちる きせつなんだね。きょうは
たくさん ひろえそうだ。ママも きつと よ
ろこぶよ。」

と いーさん。パパ。

「それに ことしは どの くりも、ふつくら
して いて おいしそうよ。」

いーさんは いいました。

くりの はいった ふくろを もって いる
いーさん。ほんの ちよつとだけ おもく なっ
て たのしく なって きました。

「あ、パパ、あそこを みて。」

いーさんが きゆうに おおきな こえを だ
しました。

いーさんが ゆびを さした ところには
とげとげの いがに はいった くりが ありま
す。いがの なかには みつつも くりが つまっ
て いました。

「いがの とげは いたいから きを つけて
とらないとね。」

と いーさん。パパ。

いーさんは まだ ちいさいので いがから
くりを とりだすのは パパの やくめです。いー
さん。パパは てぶくろを つけて じょうずに
くりを とりだして くれました。

「やったー。いっぺんに みつつも。パパ、ありがとう。」
 やっぱり パパは すごいなと いーさんは おもいました。その あと、しばらく くりひろいをつづけた ふたりは、たっぷり くりがはいった ふくろを もって いえに かえりました。

(1) いーさんが くりひろいに きたのは どこですか。

(2) さいしよに ひとつずつ ひろって いったとき、ひろった くりは なんこですか。

(3) ことしの くりは どんな ようですか。
 () に あてはまる ことばを かきましよう。
 () して いて おいしそう。

(4) いがに はいった くりを とる ときには きを つけなければ いけません。それは なぜですか。() に あてはまる ことばを かきましよう。

いがの () が いたいから。

(5) いーさんの パパは いがから いくつの くりを とりだしましたか。

つぎの ぶんを よんで こたえましょう。

「いーさんは キノウ、さくらんぼを となり
の こんさんから もらいました。かぞくで りよ
こうに いった おみやげです。しろい はこに
はいった さくらんぼは あかく ひかって ほ
うせきのようでした。」

「いーちゃん、さくらんぼ たべよう。」

と いーさんママ。

ガラスの おさらには のった さくらんぼは
ますます ひかって みえます。

「ほんとうに きれいで、ほんとうに おいしそ
う。」

と いーさん。

「ほんとうね。それに こんなに おおつぶで、
こんなの はじめてね。」

と いーさんママ。

おさらには さくらんぼが じゅつこ のって
います。はじめに ふたりで ひとつずつ。ぱくつ
と くちに 入れると ふたりは おもわず か
おを みあわせました。

「なんて あまくて おいしいんでしょう。ケー
キやさんの おかしみたい。」

と いーさんママ。

「ほんとう。こんなの はじめてよ。ケーキも
おいしいけど、この さくらんぼには かてな
いかも。」

と いーさん。

おさらには まだ さくらんぼが やつつの
こつて います。ふたりは ゆっくりと たいせ
つそうに のこりの さくらんぼを たべました。
「さくらんぼは まだ あるから、よるになつ
たら パパと さんにんで また たべましょ
う。こんちゃんたち、どこに りよこうに いっ
たのかしらね。きいて みようか。」

と いーさんママ。

「うん。いつか パパと さんにんで いった
みようよ。そうすれば こんなに おいしい
さくらんぼを たくさん たべられる。」

と いーさん。

きつと さくらんぼが たくさん きになつ

て いるのも みられるでしょう。さくらんぼを
そだてて いる ひとつにも あえるかも しれま
せん。その ときには きょうの さくらんぼの
おれいを いたいなど、いーこさんは おも
いました。

(1) あかく ひかって いる さくらんぼは な
んのようでしたか。

(2) はじめに ガラスの おさらには さくらん
ぼが なんこ のつて いましたか。

(3) はじめに ひとつ くちに 入れた とき、
いーこさんママは なんと いましたか。
() に あてはまる ことばを かきましよう。

なんて () おいしいんでしょう。

(4) いーこさんは ケーキと さくらんぼを く
らべて どちらの ほうが おいしいかもと
いましたか。

(5) こんちゃんたちが りょうこうに いったと
ころに いーこさんたちが いくと、あえる
かも しれない ひとつは どんな ひとつです
か。() に あてはまる ことばを かきま
しよう。

さくらんぼを () ひとつ

つぎのぶんをよんでこたえましょう。

いーさんと おとうさんは くりひろに
くりやまに きて います。くりの きには い
がに はいった くりが いっぱい なって い
ます。

すこし さがして あるいて いると、

「あ、あそこにあつた。」

と いーさん。ひとつめの くりを みつけま
した。

「あ、あそこにも…。」

すこし さがすと また ひとつ。そして あ
るくと また ひとつ。つぎつぎと くりが み
つかります。ひとつずつ くりを ひろうと、

「パパ、もう じゅっこに なったよ。」

と いーさん。

「こんなに おちて いるのは、ちょうど くり
がよく おちる きせつなんだね。きょうは
たくさん ひろえそうだ。ママも きつと よ
ろこぶよ。」

と いーさん。パパ。

「それに ことしは どの くりも、つやつやで
おいしそうよ。」

いーさんは いいました。

くりの はいった ふくろを もって いる
いーさん。ほんの ちよつとだけ おもく なっ
て たのしく なって きました。

「あ、パパ、あそこを みて。」

いーさんが きゆうに おおきな こえを だ
しました。

いーさんが ゆびを さした ところには
とげとげの いがに はいった くりが ありま
す。いがの なかには みつつも くりが つまっ
て いました。

「いがの とげは いたいから さわらないで
ね。」

と いーさん。パパ。

いーさんは まだ ちいさいので いがから
くりを とりだすのは パパの やくめです。いー
さん。パパは てぶくろを つけて じょうずに
くりを とりだして くれました。

「やったー。いっぺんに みつつも。パパ、ありがとう。」

やっぱり パパは すごいなと いーさんは おもいました。

その あと、しばらく くりひろいをつづけた ふたりは、たっぷり くりが いった にくろを もって いえに かえりました。

(1) きに なって いる くりは なにに は いった いますか。

(2) さいしよに ひとつずつ ひろって いった とき、ひろった くりは なんこですか。

(3) ことしの くりは どんな ようですか。

() に あてはまる ことばを かきましよう。

() で おいしそう。

(4) いがに はいった くりを とる とき、いー さん パパは なにを つけましたか。

(5) いーさんは、おとうさんが いがから くりを とりだすのを みて、どう おもいましたか。() に あてはまる ことばを かきましよう。

やっぱり パパは () 。

つぎの ぶんを よんで こたえましょう。

「イーこさんは キノウ、さくらんぼを となり
の こんさんから もらいました。かぞくで りよ
こうに いった おみやげです。しろい はこ
にはいった さくらんぼは あかく ひかって
ビーだまのようでした。」

「イーこちゃん、さくらんぼ たべよう。」

と イーこさんママ。

ガラスの おさらには のった さくらんぼは
ますます ひかって みえます。

「ほんとうに きれいで、ほんとうに おいしそ
う。」

と イーこさん。

「ほんとうね。それに こんなに おおつぶで、
こんなの はじめてね。」

と イーこさんママ。

おさらには さくらんぼが はっこ のつて
います。はじめに ふたりで ひとつずつ。ぱくつ
と くちに 入れると ふたりは おもわず か
おを みあわせました。

「すごく あまくて おいしいわ。ケーキやさん
の おかしみたい。」

と イーこさんママ。

「ほんとう。こんなの はじめてよ。ケーキも
おいしいけど、この さくらんぼには かてな
いかも。」

と イーこさん。

おさらには まだ さくらんぼが むつつ の
こつて います。ふたりは ゆっくりと たいせ
つそうに のこりの さくらんぼを たべました。

「さくらんぼは まだ あるから、よるになつ
たら パパと さんにんで また たべましょ
う。こんちゃんたち、どこに りよこうに いっ
たのかしらね。きいて みようか。」

と イーこさんママ。

「うん。いつか パパと さんにんで 行って
みようよ。そうすれば こんなに おいしい
さくらんぼを たくさん たべられる。」

と イーこさん。

きつと さくらんぼが たくさん きになつ



て いるのも みられるでしょう。さくらんぼを
そだてて いる ひとにも あえるかも しれま
せん。その ときには きょうの さくらんぼの
おれいを いたいなど、いーこさんは おも
いました。

(1) あかく ひかって いる さくらんぼは な
んのようでしたか。

(2) はじめに ガラスの おさらには さくらん
ぼが なんこ のつて いましたか。

(3) はじめに ひとつ くちに 入れた とき、
いーこさんママは なんと いましたか。
() に あてはまる ことばを かきましよう。

() あまくて おいしいわ。

(4) いーこさんは ケーキと さくらんぼを く
らべて どちらの ほうが かつと いいま
したか。

(5) さくらんぼを そだてて いる ひとに あ
えたら、いーこさんは なにを したいと お
もいましたか。() に あてはまる ことば
を かきましよう。

さくらんぼの () を いたい。



つぎの ぶんを よんで こたえましょう。

いーたさんは、おとうさんと おかあさんと
さんにんで いちごがりに やって きました。
いちごは おんしつの なかで そだてられて
います。

「あおい みは まだ たべられません。あかい
みは あまくて おいしいです。いちごは とつ
たら そのまま たべられます。ミルクを つ
けると もっと おいしいですよ。」

おんしつの いりぐちで おじさんが おしえて
くれました。

おんしつに はいると あかい いちごの み
が たくさん みえました。はじめて いちご
をとる いーたさんは、おそろおそろ いちご
を ひとつ とって みました。つぶさず いち
ごをとる ことが できた いーたさん、さつ
そく そのまま いちごを くちに 入れて み
ます。

「うわあ。すごく あまい。」

いーたさんは うれしく なりました。ふたつ

たべてから、いーたさんは いいました。

「みつつめは ミルクを つけて たべて みよ
うっと。」

おじさんが くれた ミルクは おとうさんが
もって います。いーたさんは みつつめの い
ちごを とって おとうさんに ミルクを つけ
てもらいました。

ミルクを つけた いちごを くちに 入れて
「うーん。とっても あまくて おいしいよ。お
とうさんも たべて みて。」

と いーたさん。

「へえ、そんなに おいしいの。どれどれ、ひと
つ たべて みよう。」

とおとうさん。いちごを ひとつ とって ミ
ルクを つけて たべて みます。

「へえ、これは おいしいね。おかあさんも ミ
ルクを つけて みたら。」

とおとうさん。

おかあさんは いちごが だいすきで、もう
よつつも たべたそうです。おかあさんも ミル



クをつけて たべました。
「おいしくて しあわせ。なんこでも たべられ
るわ。」

と いーこさんママ。

「ママは くいしんぼうだなあ。」

と わらいながら いーこさんパパ。

「だって ほんとうに おいしいんだもん。」

と いーこさんママ。いちごがりは かぞくの
おきにいりに なりました。

(1) いちごは なんの なかで そだてられて
いますか。

(2) たべられる いちごは どんな いろですか。

(3) いちごの たべかたは そのまま たべるの
と もうひとつ どんな たべかたが ありま
すか。

(4) いーたさんが ミルクを つけて たべたの
は いくつめの いちごですか。

(5) おかあさんは、ミルクを つけて いちごを
たべたとき、どんな きもちに なりましたか。
() に あてはまる ことばを かきましょ
う。

おいしくて () な きもち



つぎの ぶんを よんで こたえましょう。

いーたさんは、おとうさんと おかあさんと
さんにんで いちごがりに やって きました。
いちごは おんしつの なかで そだてられて
います。

「みどりの みは まだ たべられません。あか
い みは あまくて おいしいです。いちごは
とったら そのまま たべられます。ミルクを
つけると もっと おいしいですよ。」

おんしつの いりぐちで おじさんが おしえて
くれました。

おんしつに はいると あかい いちごの み
が たくさん みえました。はじめて いちご
をとる いーたさんは、おそろおそろ いちご
を ひとつ とって みました。つぶさず いち
ごをとる ことが できた いーたさん、さつ
そく そのまま いちごを くちに 入れて み
ます。

「うわあ。すごく あまい。」

いーたさんは うれしく なりました。みつつ

たべてから、いーたさんは いいました。

「よつつめは ミルクを つけて たべて みよ
うつと。」

おじさんが くれた ミルクは おとうさんが
もって います。いーたさんは よつつめの い
ちごを とって おとうさんに ミルクを つけ
てもらいました。

ミルクを つけた いちごを くちに 入れて
「うーん。とっても あまくて おいしいよ。お
とうさんも たべて みて。」

と いーたさん。

「へえ、そんなに おいしいの。どれどれ、ひと
つ たべて みよう。」

とおとうさん。いちごを ひとつ とって ミ
ルクを つけて たべて みます。

「へえ、これは おいしいね。おかあさんも ミ
ルクを つけて みたら。」

とおとうさん。

おかあさんは いちごが だいすきで、もう
むつつも たべたそうです。おかあさんも ミル



クをつけて たべました。
「おいしくて ゆめのよう。なんこでも たべられるわ。」

と いーこさんママ。

「ママは くいしんぼうだなあ。」

と わらいながら いーこさんパパ。

「だって ほんとうに おいしいんだもん。」

と いーこさんママ。いちごがりは かぞくのおきにいりに なりました。

(1) たべられない いちごは どんな いろですか。

(2) おんしつの いりぐちで たべかたを おしえて くれたのは だれですか。

(3) はじめて いちごをとる とき、いーたさんは どんな ようすでしたか。()にあてはまる ことばを かきましよう。

いちごを () とった。

(4) いーたさんが ミルクをつけて たべたのは いくつめの いちごですか。

(5) おかあさんは、ミルクを つけて いちごを たべたとき、どんな きもちになりましたか。()にあてはまる ことばを かきましよう。

おいしくて () な きもち